

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2024年8月分)

2024年9月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[SIPA副長官に対する国際指名手配\(8日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[サラエボ・カントンへのガス輸送の一時停止\(13日\)](#)

イ スルプスカ共和国(RS)

●[スタニブコビッチ・バニャ・ルカ市長への告訴\(19日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[NATO事務総長補のBH訪問\(16日\)](#)

(2) 二国間関係

●[CIA長官のBH訪問\(20日\)](#)

●[ベチロビッチ大統領評議会議長のスウェーデン訪問\(28日～29日\)](#)

●[ベチロビッチ大統領評議会議長のリトアニア訪問\(30日～31日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[空手器材引渡式の実施\(2日\)](#)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

(2) 経済政策・公共事業

(3) 経済協力

(4) 民間セクター

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報をとりまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●SIPA副長官に対する国際指名手配(8日)

8日、BH裁判所はガリッチ国家捜査・保護庁(SIPA)副長官を国際指名手配した旨発表。同人は以前、国境警察長官を務めていた時期に立場を悪用した汚職及び組織犯罪との関わりがあったとされる。7月に国境警察関係者が拘束された後、ガリッチ副長官はクロアチアへ逃走。現在も同国に滞在している。同副長官はクロアチアとBHの二重国籍を持つ。同人は病休を取得しており、辞職(退職金を受け取ることができる)を求めているが、解任を求める動きもあることから、辞職に係る閣僚評議会での決定ができていない状態にある。

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●BH初の心臓移植手術(4日)

4日、ゼニツァのカントン公立病院において、BH初となる心臓移植手術が行われた。ドナーとなったのは脳死と診断された21歳の患者であり、家族の同意の下、心臓の他多数の臓器を提供した。

●トゥルノボ市長の逮捕(5日)

5日、トゥルノボ(BH連邦、サラエボ・カントンに所在。サラエボから南方に約30km)のベリロ市長他3名が逮捕された。逮捕容疑は国有地を民間企業に高い価格で売却し、不当に利益を得たとするもの。ベリロ市長は2002年にトゥルノボ市長に初就任。その後2004年～2008年にサラエボ・カントン議会議員を務め、2008年に再びトゥルノボ市長に就任して以降、通算5期にわたって同職にある。

●サラエボ・カントンへのガス輸送の一時停止(13日)

13日、RSの東サラエボ・ガスはサラエボ・カ

ントンへのガス輸送を一時停止する旨発表。これを受け、両エンティティの鉱業・エネルギー大臣及びエネルギーインベスト社と東サラエボ・ガスによる会合が実施され、14日朝に輸送が再開された。本件はガス価格の引き上げをめぐるエネルギーインベスト社と東サラエボ・ガスの間の不一致を原因として発生した。

●サンスキ・モストにおける銃撃事件の発生(21日)

21日、サンスキ・モスト(ウナ・サナ・カントン、バニャ・ルカから西方に約86km)の高校で銃撃事件が発生。校長含む教職員3名が死亡した。事件発生時、校内には生徒もいたが負傷者は出ていない。容疑者は高校の元用務員であり、犯行後自殺を図って病院に搬送された。報道によれば、雇用関係を巡って学校側と係争を抱えていたとされる。

イ スルブスカ共和国(RS)

●共通緊急電話番号の導入に関するRS政府の同意(15日)

RS政府は、閣議において欧州共通の緊急電話番号「112」の導入に関し、憲法及び法律に基づくRSの権能を尊重した上で同意するとの公式の姿勢を発表した。本件はEUの西バルカン成長計画に係る改革アジェンダ(7月にBHが採択に失敗したもの)に含まれていたが、国家レベルでの導入にRSが反対し、アジェンダから削除されていたもの。今後、国レベルで緊急電話番号導入に係る法改正等の手続きが行われる見込み。

他方、ビシュコビツRS首相は、RSの緊急電話センターの機能はそのまま保たれており、「112」は即ち共通の緊急電話ネットワークへの統合を意味するわけではないと述べた。

●スタニブコビッチ・バニャ・ルカ市長への告訴(19日)

19日、スレブレニツァの虐殺の遺族団体である「スレブレニツァ・ジェパ母の会」は、スタニブコビッチ・バニャ・ルカ市長をジェノサイド否定により訴える旨明らかにした。

スタニブコビッチ市長は13日、インターネットポータル「klix」の配信に出演。番組の中で複数回、スレブレニツァの虐殺に関し「ジェノサイド」の用語を否定した。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●NATO事務総長補のBH訪問(16日)

16日、ルーゲNATO事務総長補(政務・安全保障政策担当)がBHを訪問し、信任のバラス当地NATO司令官とともにコムシッチBH大統領評議会メンバー、コナコビッチ外相、シュミット上級代表とそれぞれ会談。BH側からは引き続き、BHの安定に対しNATOが果たす役割の大きさが述べられたほか、EU・NATO加盟に係る改革への強い姿勢が示された。

ルーゲ事務総長補は、10月にBHが主催するNATOパートナーシップ・シンポジウム開催につき、BH政府機関に対して謝意を表明した。

(2) 二国間関係

●CIA長官のBH訪問(20日)

20日、バーンズCIA長官がBHを訪問し、大統領評議会3メンバー及びコナコビッチ外相と会談した。ベチロビッチ大統領評議会議長は、会談においてRSの分離主義等につき説明した旨明らかにした。今般の訪問を受け、ドディックRS大統領は、テロとの戦いという文脈において今般の訪問は意義あるものと評価した。

●ベチロビッチ大統領評議会議長のスウェーデン訪問(28日～29日)

28日～29日、ベチロビッチ大統領評議会議長はスウェーデンを訪問し、カール 16 世グスタフ国王、ビルストロム外相、ノレーン議会議長等と会談した。ベチロビッチ議長は、EU及びNATO加盟の実現はBH及び地域の平和、民主主義、安全、安定への投資であると述べ、スウェーデン及びフィンランドのNATO加盟の意義を強調しつつ、西バルカンという欧州の安全保障上の弱点をNATOに統合していくことが重要であると指摘した。

●ベチロビッチ大統領評議会議長のリトアニア訪問(30日～31日)

30日～31日、ベチロビッチ大統領評議会議長はリトアニアを訪問し、ナウセーダ大統領、シモニーテ首相及びチュミリーテ＝ニールセン議会議長等と会談した。ベチロビッチ議長は、NATO加盟とEU加盟の実現が雇用の創出や投資の呼び込みに繋がるとし、とりわけNATO加盟の重要性を強調。また、二国間の経済関係のさらなる強化のため、各種合意の署名の必要性につき述べた。

(3) 日・BH関係

●空手器材引渡式の実施(2日)

2日、杵渚駐BH大使は、外務省スポーツ外交推進事業により、全日本空手道連盟からBH空手連盟に供与された練習用器材(畳、道着、防具等)の引渡式に出席。杵渚大使は、日本による今般の器材供与は、選手の能力向上のみならず、武道における礼節を身につけることにも繋がると述べ、BHにおいて多くの人々が空手に親しんでいることを歓迎した。



(写真:引渡式の様子)

3. 経済

(1)経済指標(出典: BH統計局)

●産業生産指数

2024年7月の産業生産指数は、季節調整後数値で前月比3.1%のプラス。また、昨年同月比2.8%のマイナス。

●雇用／失業率

2024年6月の失業者登録数は32万5,568人(うち女性19万2,395人)で、前月比で0.3%プラス、前年同月比で6.1%マイナス。

●平均給与

2024年6月の平均給与(手取り)は1,374KMで、前年同月比で8.5%のプラス。

また、2024年上半期の平均給与(手取り)は1,359KMで、前年同期比で9.3%のプラス。

●消費者物価指数

2024年7月の消費者物価指数は前月比変化なし。また、前年同月比で平均1.8%の上昇。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比0.4%のマイナス。

●貿易収支

2024年1月～7月のBHからの輸出総額は93.59億KM(前年同期比7.1%減)、BHへの輸入総額は166.15億KM(前年同期比3.9%増)。貿易収支は72.56億KMの赤字。

(2)経済政策・公共事業

●電気料金の値上げ(1日)

8月1日より、BH電力公社(BH連邦をカバー)は、家庭向けの電気料金を10.4%値上げ。今般の値上げは輸送コストの高騰、請求書印刷費の増加等の理由によるものであるが、BH電力公社によれば、今後もさらなる値上げの可能性はある。

(3)経済協力

●ゼニツァ・ドボイ・カントンにおける学校の再建プロジェクト(14日)

14日、当地UNDPとゼニツァ・ドボイ・カントンの間で、20の学校の再建プロジェクト(約100万KM規模)に関する合意への署名が行われた。ゼニツァが8月13日に欧州最高気温を記録したことにも鑑み、UNDP及びカントンの代表は、グリーン・アジェンダの実現に向けた脱炭素化の重要性を強調。学校における環境分野への投資につき言及した。ゼニツァは大規模な炭鉱があるため石炭エネルギーの消費量が多いが、今後の削減、及び暖房費の他分野への転用等が目指される見込み。

(4)民間セクター

●外国投資の動向(4日)

BH対外投資促進庁(FIPA)がFENAの取材に答えたところによると、2023年の対BH外国直接投資(FDI)総額は前年比15.8%の増加の見込み。2021年以降の外国直接投資(FDI)の成長に関するデータによれば、特に既存投資に対する追加的投資が大きく伸びている。他方で外国の投資家は電力使用・建設等に係る認可手続きの複雑さやBHに根付く汚職を解消するための改革の必要性を強く認識している。また、投資分野としては再生可能エネルギーに対する関心が高い傾向にある。2023年1月～9月期の対BH投資額の上位は、ロシア、オランダ、クロアチア、英国、トルコ、ドイツ。EU27カ国は、全ての外国直接投資の45.3%を占める。

●太陽光発電企業のBH進出(4日)

4日、ジビニツェ(トウズラの南方近郊)に、スイスにて太陽光発電関連事業に従事するSmartsolar 社がBH事務所を開設した。同社オーナーであるホジッチ氏はBHの出身であり、

スイスや欧州市場で培った経験を元にBH市場でも成功を収めたいとしつつ、BHは勤勉な人材や優秀な専門家に恵まれている旨強調した。

●オーストリア・RS投資家会合の開催(16日)

トレビニェ(BH南部。RSに属し、クロアチア国境に近い)において、オーストリアの投資家30名以上を招いたビジネス会合が3日間にわたり開催された。会合の目的はRSのもつ投資の潜在性をプロモーションし、オーストリアとの経済関係を強化することであり、特にヘルツェゴビナ地方におけるワイン、ハーブ、肉類、乳製品等の欧州市場における販売に大きな関心が示されたほか、金属加工、木材加工の企業関係者も出席。